

高等学校 芸術(書道) 実技試験問題

I

次の(1)～(4)の古典をそれぞれの指示に従い、臨書せよ。

(1) 自書告身(指示…半紙を縦に使い、毛筆を用いること。)

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。

出典…書道Ⅰ 石飛博光他19名著

東京書籍

27ページ～1行目6字目と2行目1字目の集字

(集字)

(2) 自叙帖(指示…半紙を縦に使い、毛筆を用いること。)

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典…書道Ⅱ 石飛博光他19名著

東京書籍 36ページ

(3) 礼器碑(指示…半紙を縦に使い、毛筆を用いること。)

著作権保護の観点により、
本作品を掲載いたしません。

出典…書道Ⅱ 石飛博光他19名著

東京書籍 24ページ～1行目

(4) 高野切第三種（指示…改良半紙を縦に使い、毛筆を用いること。）

著作権保護の観点により、本作品を掲載いたしません。

出典：書道1 石飛博光他19名著

東京書籍 88ページ
5行目から10行目まで

2

次の(1)～(3)に答えよ。

(1) 次の□の中の語句を、次に示す条件を満たすよう揮毫せよ。

〈条件〉

- ・半切用紙を縦に使うこと。
- ・書体は行草に限る。
- ・落款は「桃華書」とすること。

冷硯欲書先自凍 孤燈何事獨成花

(蘇軾)

(2) 次の□の中の和歌を、仮名の書の作品として、次に示す条件を満たすよう揮毫せよ。

〈条件〉

- ・仮名の書の特色を生かして創造的に表現すること。
- ・漢字・仮名の変更、変体仮名の使用は自由とする。
- ・改良半紙を縦に使い、落款印の代わりに「○」を墨書すること。

あをによし 奈良の都は 咲く花の
にほふがごとく 今盛りなり

(『萬葉集』より)

(3) 次の□の中の語句を、示範作品として、次に示す条件を満たすよう揮毫せよ。

〈条件〉

- ・「漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成」の工夫について理解を促すことができる作品であること。
- ・「漢字と仮名の調和した線質による表現」の技能について考えさせることができる作品であること。
- ・漢字・仮名遣いは□の中のままとし、半裁を使い、縦書きとする。書体、行送りは自由とする。
- ・落款印の代わりに「○」を墨書すること。

己の欲せざる所は
人に施すこと勿かれ

(『論語』より)

3

次の(1)、(2)に答えよ。

- (1) 次の□の中の文をボールペン（消えるボールペンの使用は不可）で丁寧に体裁よく書け。漢字は楷書または行書とし、仮名は連綿させないこと。また、漢字・仮名遣いは□の中の文のままとし、行送りは自由とする。A4判用紙を横長に使い、縦書きとする。

奥の細道 松尾芭蕉

月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり。
舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老いをむかふ
る者は、日々旅にして旅を栖とす。古人も多く旅に死
せるあり。

- (2) 次の□の中の語句を掲示物として丁寧に体裁よく毛筆で書け。八つ切り画用紙を縦長に使い、縦書きとする。行送りは自由とする。

進路講演会

日時 七月六日（金） 午後二時より

会場 南館三階視聴覚教室

講師 扇町大学教授 龍岡まゆみ

